

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 星とたんぽぽ いっぱずつ			
○保護者評価実施期間	2025年 2月10 日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年 2月10 日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月12 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達障害に特化した療育であること	・常に専門の先生を入れての研修体制を取っている。毎日の反省会やケース会議を常日頃から行い、どうしてもわからないことは、専門の先生に聴ける体制があること。	・これからも、この研修体制を続け、職員の学びを、子どもの療育や保護者支援に生かしていく。
2	・子どもの評価、そこからの支援について一人ではなく、チームで考えていく体制があること。	・毎朝の朝礼、反省会での振り返りで、職員全員で共有し、誰が見ても（療育しても）同じ関わりができるという体制。	・常日ごろから、子どもたちのことを話しあえる雰囲気づくりに努め、職員が一人で抱え込まずチームで関わることの大切さを継続していく。 ・「知らなかった」のないように、連絡ノートや週一回の会議で共有する。
3	・保護者への取り組み。	・療育後の15分のお話で子どもの姿だけでなく、保護者の悩みを聞いていく。 ・時間が足りない時には、時間を作り話している。	・保護者への発信を丁寧に行っていると思うっているが、数人の方がHPを見たり、親の会などのお知らせの返信がない場合があるので、保護者全員が把握できるよう細かな配慮をしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ 職員の共通理解が出来ていると思えるところとそうでないところがある。	・ 半日勤務の職員が多い。 ・ 疑問を言葉に出していかない。 ・ 受動的である。 ・ 風通しの良い職場に…を心掛けているが、出来ていないところもあるのかと思う。	・ 共有ノートを活用していく。決まった人が書くのではなく、みんながそれぞれ知ってもらいたいことを記入していく。 ・ 職員会議や反省会で声に出して行けるような雰囲気作りを心掛ける。（午前の反省会もする） ・ みんなが主導的に動いていくようにする。
2	・ 「親の会」を開催しても、参加する人が限られている。そして、毎回お手紙を出しても、返信がない。 ・ HP等、できる限り更新しているのだが、見ていない人がいる。	・ 親の会での発言ができない。 ・ 子どもを置いて参加しづらい。 ・ 参加したいが子どもを見てもらえる人がいない。 ・ HP、Facebookを見る時間がない。	・ 親の会を魅力あるものにする。 ・ 会場に足を運ぶことなく、参加しやすい方法を探る。 ・ HPやFacebookの更新をできるだけ多くして、関心を持ってもらう。内容を宣伝して、見ようと思えるようにする。
3	・ 子ども一人ひとりに合わせると支援の準備等、時間の捻出に工夫が必要。良いところでもあり、苦しいところでもある。	・ 「個別に必要な課題」は、当事業所での強みの一つである。一人一人に合った課題を考えることは必要。	・ 補助の先生に見てもらえるところ等の工夫をし、少しでも準備の時間を作るよう工夫し、やりがいを持って楽しく療育に当たってほしい。